夢に向かって

信頼される人になりたい――

野村　鴻志 さん（県北中３年）

男子バレー部に所属し、生徒会では会計を務める野村鴻志さん。先日の子ども議会では子ども議員を務めました。自分の意見をしっかりと発言する姿は、とても頼もしく見えました。

僕の将来の夢は、まだはっきりとしていませんが編集者か研究者になることです。イラストを描いたり、ストーリーを考えることがあまり得意ではないのですが、編集者として作品を読んで評価し、作者と一緒にひとつの作品を作り上げていくことに魅力を感じました。研究者は、コロナ禍で世の中の動きが停滞していても、さまざまな研究を進めていました。緊急事態の時でも、世界を救うために頑張る姿に憧れを持ちました。また、自分の世界に没頭し、好きなものに集中して取り組めるところに魅力を感じました。親にも、そういう職業が合っているのではないかと言われたこともありました。

今は思ったことを言葉にできるよう、国語の学習に集中して取り組んでいます。たくさん本を読んで知識を取り入れたいです。作家のサポート役、裏方としてしっかりと支えられるようになりたいです。この人なら任せられるというような編集者を目指したいです。

理科の授業も頑張っています。授業の中で面白いと思ったことや興味を持ったことがあったら、それを深く掘り下げて調べるようにしています。研究者になったら、世界の役に立つような、日々の暮らしを便利にする研究をしたいです。どちらの夢をかなえるにしても、自分の周りにたくさんの人がいて、信頼される大人になりたいです。実行力や決断力、コミュニケーション力が大切だと思うので、日々努力を続けていきます。

町長コラム

真こらむ

【第 25 回】

通じ合う関係 ―ソフトスポ少大会―

朝から強い日差しがグラウンドを焼く。今年で 12 回目の国見ソフトボールスポーツ少年団長杯の大会。まず 21 チームが、あつかしブロックとよしつねブロックに分かれてのリーグ戦。その後、ブロックごとに上位チームは決勝トーナメント戦へ進む。郡山や二本松から参加するチームもある大きな大会。

7 月 16 日。よしつねブロック。国見チームの 1 回戦を応援。点の取り合い。シーソーゲーム。8 対 7 で勝利。2 回戦も 5 対 1。連勝。

1 回戦を応援していて印象的だったのは、相手チームの監督が大声で子どもたちにゲキを飛ばすのに、国見チームの監督や指導者たちは静かだったこと。もちろん「ここぞ」という場面での声掛けはするけど、じっと子どもたちのプレーを見守っていたこと。

開会式の前。国見を指導している伊藤さんが「今年のチームは力があるよ。いいところまで行くよ」と話してくれたことを思い出す。静かに子どもたちのプレーを見る彼らは、自分たちが指導してきた子どもたちを信じているんだろうな。そしてプレーしてる子どもたちも、指導者たちに視線を送って気持ちを落ち着かせたり、奮い立たせたりしてるんだろうな。通じ合うものがあるんだろうな。

この日、国見チームはリーグ戦 1 位通過。決勝トーナメント戦では、二本松のチームに敗れたけど、堂々の準優勝。すげぇ～。おめでとう。も一つ感心するのは、この大会、全て国見ソフトスポ少のお父さんとお母さん、指導者たちで運営してること。これもすげぇ～。

引地　真

VEGETABLE OIL INK
編集発行 国見町
UD FONT

〒969-1792 福島県伊達郡国見町大字藤田字一丁田二 1-7
TEL 024-585-2111 FAX 024-585-2181
E-mail somu@town.kunimi.fukushima.jp URL www.town.kunimi.fukushima.jp/